

精華町教育委員会議事録

令和2年（第8回）

1 開 会 令和2年8月28日(金) 午後2時00分
閉 会 令和2年8月28日(金) 午後4時30分

2 出席委員 川村教育長 松本委員 新司委員 岡島委員
松下委員

3 欠席委員 なし

4 出席事務局職員

浦本教育部長	林田総括指導主事
俵谷学校教育課長	石崎生涯学習課長
上原学校教育課係長	

5 傍聴者 なし

6 議事の概要

(1) 開会

教育長から第8回教育委員会の開会を宣言。

(2) 前回議事録について

教育部長から令和2年第7回教育委員会の議事録について説明。

【採 決】

・全員承認

(3) 教育長報告事項

7月29日に校長会があり、前回の教育委員会において岡島委員から指摘いただいた熱中症対策について、新型コロナウイルス対策と併せて徹底するよう指示した。

8月3日から精華町議会定例会8月特別会議が開催され、前回の教育委員会で審議いただいた補正予算が提案され、8月5日の本会議において全員一致で可決された。これにより、GIGAスクール構想に関連する教職員用の端末や

キッキング作業に係る予算が執行可能となった。

8月19日には総合教育会議が開催され、委員各位からは様々な観点からの教育に係る有意義な課題認識、取組の評価などについて意見をいただいた。町長からは、学校における新型コロナウイルス対策の徹底やGIGAスクール構想で整備される機器の有効活用などについて、教育委員会に対する意見をいただいたところである。

8月20日には、山城教育局において、京都府教育委員会と教育局管内の教育長との懇談があり、各学校での児童生徒へのメンタル面でのケアについて、授業の遅れを回復するための取組についてなど、府教委の考え方の説明を受けるとともに、各教育委員会での取組の状況などを報告し、意見交流を行った。

また、町立小中学校については、8月1日から8月23日までの間、夏休みに入っていたが、24日からは2学期が開始されている。各学校からは、目立った欠席者の増加はなく、元気に登校してきているとの報告を受けている。

(4) 議決事項

議案第22号 令和2年度精華町議会定例会9月会議提出議案に係る意見聴取について（令和2年度精華町一般会計補正予算（第5号））

教育部長 【提案説明】

GIGAスクール構想支援事業への追加計上として、1,701万9,000円の増額補正となっている。事業内容としては、GIGAスクール構想で整備する端末について、各学校で現地においてネットワーク設定等の作業を行うための費用として1,500万4,000円の計上。また、大型提示装置の整備に併せ、各教室のブラウン管テレビの撤去処分費用として201万5,000円を計上するもの。

松本委員 以前に説明いただいた内容になるかと思うが、再度確認させていただきたい。資料の中に既計上済分として、教職員用端末購入904万円、大型掲示装置購入2,215万円とあるが、それぞれ何台整備することになるのか。また、端末については、児童生徒用、教職員用も含めてすべての整備が完了すると考えてよいのか。

学校教育課長 教職員用の端末については、既計上済分の904万5千円で全教職員分が揃うこととなる。児童生徒用の端末については、これとは

別で、文部科学省の補助金を受けて整備するG I G Aスクール構築事業において、すべての児童生徒に1人1台の端末を整備するための予算が計上済みである。

大型提示装置については、当該事業の既計上済分に記載の2,215万円に加え、当初予算において900万円を計上している。これらの予算の合計により、すべての小中学校のすべての普通教室に1台ずつの整備が可能となり、さらには各校とも特別教室分として6台ずつを整備する予定である。

以上のように、これまで計上済みの予算と、今回の補正予算により、G I G Aスクール構想に関連する予算については、確保が完了した。

松本委員 すべての児童生徒、教職員への端末の整備に加え、大型提示装置についてもすべての普通教室、さらには特別教室にも整備されるとのことで、非常に素晴らしいことである。感謝を申し上げたい。

(採決 ー 全員挙手により原案どおり決定)

議案第23号 令和3年度以降に精華町立中学校において使用する教科用図書の採択について

教育部長 【提案説明】

令和3年度以降に精華町立中学校において使用する教科用図書について、教育委員会の採択を得るため提案するものである。提案内容は、山城教科用図書採択地区協議会における協議の結果に基づくものである。

川村教育長 今回採択を予定している教科用図書は、令和3年度から6年度までの4年間、山城採択地区において使用するものである。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律により、共同採択地区として設定されている山城地方の公立小・中学校は同一の教科用図書を採択しなければならないことから、去る7月27日に山城教科用図書採択地区協議会が開催され、京都府教育委員会から示された採択基準と基本観点をもとに協議が行

われた。

採択にあたっては、各教科と特別の教科道徳について、それぞれ3つの採択基準と7点の基本観点が示されており、これらの京都府教育委員会の採択基準を踏まえて、教科別調査委員会において調査研究が行われた。調査研究は申請のあった全ての教科書について行われ、その結果が山城教科用図書採択地区協議会教科用図書調査報告書としてまとめられた。この報告書に基づき、代表調査員から教科ごとに報告を受け、採択地区協議会の委員の20名、当日は19名の出席で協議が行われた。同協議会には、本町から委員として、私と松本教育長職務代理が出席した。

協議については、先ほどの採択基準に加え、山城地域の課題を踏まえた4つの観点に基づき協議が行われた。1点目は、山城地区において学力向上は大きな課題の一つであり、特に生徒が主体的に学習に取り組める工夫や、生徒の思考力、判断力、表現力の育成を図るための配慮などがあるかという学力向上の視点。2点目は、教育を取り巻く多様な価値観がある中で、公教育として多種多様な意見がより反映されているかという、公平性が担保されているかという視点。3点目は、管内教員の若年化に伴い、授業の質を担保する上で、若手教員でも授業で使いやすいかどうかという視点。4点目は、生徒が親しみやすく、使いやすく、そして、主体的、対話的に学習に取り組むことができるかどうかという視点。これらの4点とともに、法定展示や各巡回展示の中でいただいた多くの意見も参考に協議が行われた。協議の結果は、議案第23号のとおりである。

それでは、教科種目ごとに、総括指導主事より、選定結果のポイントについて説明させていただき、委員各位の意見をいただきたいと思う。

【国語】東京書籍

総括指導主事 教科書全体の構成が、課題設定、基礎力の育成、学習ポイントの把握等、主体的・対話的な学びを生み出す授業スタイルがつく

りやすい。Dマークコンテンツの導入により、今回の緊急事態宣言のような事態への対応や今後の1人1台のタブレット導入等に即しており、デジタルコンテンツが活用しやすく、自学自習を進める上で優れている。各単元の配列が工夫されており、前の教材で身につけた力を生かし、次の課題に応用する力を育成できるようになっている。

松本委員 3つの観点に照らして、教科書の内容を見させていただいた。1つ目は、教科書が主体的・対話的な学びを生み出す授業スタイルをつくりやすい構成になっているかという観点。東京書籍は、課題設定に加えて基礎・基本の定着や、学習のポイントを把握させることに優れていると感じた。2年生の「人物像を捉える」という教材では、「人物の言葉や行動、態度に着目することがポイントであることとあわせて、人物像の多面性に気づくことも大切だ」と丁寧なアドバイスが記載されていた。

2つ目は、1人1台のタブレット導入を見越したデジタルコンテンツの活用の観点。東京書籍は、内容が豊かであるとともに、数も充実している。3年生の教科書では、教材で8個、練習問題等で8個、計16個のデジタルコンテンツがあり、次に多い発行社では合計10個となっていた。この点においても主体的で深い学びに導きやすいと思う。

3つ目は、生徒が主体的・対話的に学習できるような工夫があるかという観点。東京書籍では、1年生で「グループディスカッション」の教材があり、ディスカッションが苦手な生徒も参加しやすいように対話のモデルを丁寧に説明されており、ページ数も他社に比べて多く、主体的で対話的な学習を進めやすい配慮と工夫をしていると感じた。

【書写】光村図書

総括指導主事 書き順や書写の書き写し用のページが充実しており、併せて別冊「書写ブック」に3年間の要点がまとめられているため、自主学习や書写の主体的な学習への配慮が見られる。次に、QRコードから筆遣いの動画等を見ることができ、使いやすさ、主体性を

育む観点から見て、優れた部分が多い。

松本委員 3つの観点に照らして、教科書の内容を見させていただいた。1つ目は、書き順や書写の書き写し用のページが充実しているかという観点。光村図書の教科書は、書き順や書写の書き写し用ページの充実に加えて、別冊「書写ブック」があり、自主学習や主体的な学習に取り組むための内容が充実している。

2つ目は、内容や構成が学習指導を進める上で適切かという観点。自主的な学習という意味での主体性については、どの教科書も工夫されおり、手書き文字に近いユニバーサルデザインのフォントを使用しているものもあった。光村図書は、多様な文字文化の担い手として主体的に取り組むという観点から、主体的・対話的で深い学びにつながっていくと感じた。ユニバーサルデザインの書体についての詳しい説明、手紙の書き方、年賀状の書き方などを具体的に記載しており、生徒たちにとって役立つものと考えられる。

3つ目は、使用する上で表記・表現での工夫に関する観点。どの教科書においても、QRコードから筆遣いの動画を見ることができ、光村図書は、主体性を育む観点と使いやすさにおいて優れていると感じた。

【社会 地理的分野】帝国書院

総括指導主事 各単元の見開き2ページで、1つのテーマについて、導入からまとめまでの流れが構成されているとともに、確認資料、前の学習の振り返りなど、基礎的な内容の定着を確かめるための工夫が見られる。また、「技術を磨く」のコーナーでは、写真や地図、グラフの読み取り方など、地理的技能を習得するための工夫が見られる。

川村教育長 帝国書院の教科書は、写真がクリアで美しく、人の表情までが非常に鮮やかで、その点において非常に優れている。地理は、多くのことに興味を持ち、知識を広げていくべき教科であるという観点からすると、特徴をよく捉えた興味を持たせるような写真、分かりやすい図表などが重要である。随所に鮮明で見やすい地図

も掲載されており、長年に渡って地図を手がけてきた帝国書院の良さが出ている。

記述内容・説明の分かりやすさについて、EUに関する記述で比較してみたが、統合の経過、工業・農業の発展、現在の課題、また英国の離脱など、これらを平易で流れのある説明が帝国書院、日本文教出版、教育出版において優れていると感じた。特に帝国書院については、歴史的な経過が詳しく記載されており、理解が深まると感じた。また、日本の地域的特色の内容においても、工夫し研究してポイントが捉えやすく整理してあると感じた。各教科書を比較する中で、帝国書院が一番魅力的であったと思う。

【社会 歴史的分野】帝国書院

総括指導主事　まず、小学校での学習内容の振り返りがあり、中学校での学習内容との違いを知ることができ、学習内容に見通しを持って学習することができる。本文が精選されており、深い内容の記述が多く、本文を読むだけで深い学びのための予習にもなる。そして、各単元の中心となる象徴的な資料を大きく配置し、関心を高める工夫が見られ、学習の最後には「確認資料・説明資料」と題した振り返りを入れることで、知識の習得や思考力、判断力、表現力の育成に注力していることが見られた。

川村教育長　各教科書を比較して、山川出版と帝国書院の教科書が優れていると感じた。歴史の教科書として山川出版は定評があり、日本史の記述とともに関連する世界史の記述が比較的大きく記載されていた。世界史の中の日本史という学習スタンスは重要であり、良い点であると感じた。帝国書院については、タイムトラベルというページがあり、その時代の町の様子を具体的に伝える絵を掲載しており、イメージが湧きやすい。平安時代であれば、京のみやこの様子や人の関係などの絵が描かれており、各種資料を参考に正確に表現してあると感じた。また、時代区分ごとの「章の学習を振り返ろう」のページでは、学んだ内容が年表でまとめられている点も良いと感じた。他にも、中世社会の権力機構と古代社会の権力機構について文章で書かせる問題があるが、これはその

時代の特徴を的確に捉えるために重要なポイントであり、考えを整理することに役立つと思われる。

歴史の具体的な記述内容について、天武天皇の実績を例に比較してみたが、帝国書院については、壬申の乱と、その後に天武天皇が天皇を中心とした律令国家の建設のために努力したことが分かりやすく端的に的確に記載されている。これに比べると東京書籍などは、若干、記載内容が物足りないように思われる。一方で、山川出版は、大海人皇子と大友皇子が争い、勝利した大海人皇子が飛鳥浄御原宮で即位し、天武天皇となったことまで詳細に記載されており、中学生にとっては分量が多いように感じた。他の内容についても、帝国書院と山川出版はこの程度の密度の差がある。中学生の教科書として考えた場合、帝国書院の方が内容、量ともに適当であり、帝国書院の方が相応しいと考えた。

【社会 公民的分野】東京書籍

総括指導主事 見開き2ページで、導入資料から課題学習等の流れが構造化されており、学習が進めやすいように工夫されている。また、各項で学習活動が細かく設定されており、主体的な学びを助けるよう工夫されている。巻末には、解説付きの参考法令集や用語解説のページが充実しており、内容の理解を進め、自主学習にも役立つような構成となっている。

松本委員 3つの観点に照らして、教科書の内容を見させていただいた。1つ目は、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮という観点。東京書籍は、1単位時間の内容で、まず導入資料があり、次に学習課題があり、3番目に本文、4番目にチェック、最後にトライが記載されており、1時間の中で何を学ぶのかを意識化させる流れになっている。巻末には、解説付きの参考法令集や用語集が34ページあり、東京書籍が最も多かった。抽象的な用語を解説しており、生徒自らが学習を進め、理解し、内容の定着を図れるような工夫が見られる。

2つ目は、思考力・判断力・表現力の育成を図るための配慮という観点。東京書籍の教科書は、この能力の育成に優れた配慮を

していると感じた。まず、各単元では明確な「問い」を軸にした、課題解決的な学習に取り組みやすい工夫がある。また、各章や節、本時において、まとめと振り返りができる構成になっており、生徒が主体的に学習を進めるために、必要な配慮と工夫がある。さらに、現代社会の「見方・考え方」を働かせ、学びを深める活動に取り組みたい箇所をマークで明示しており、生徒が考えて活動に取り組めるような配慮がある。また、単元のまとめに際し、思考を整理するためのツールを紹介することで、興味・関心を高める工夫をしている。

3つ目は、主体的・対話的に学習に取り組める配慮という観点。東京書籍では、グループで協働的な活動を求める「みんなでチャレンジ」のコーナーを他社の倍以上に当たる21項目設定し、対話的な授業に取り組みやすい工夫がある。

【社会 地図】 帝国書院

総括指導主事 地図帳については2社であり、大きな違いとしては、帝国書院がA4サイズと少し大きなサイズで、そのことにより掲載範囲が広がり、地図や各資料図が豊富に掲載され、扱いやすく見やすくなっている。また、QRコードが地図中の随所に配置され、生徒の興味・関心に合わせて、資料活用が可能である。

川村教育長 総括の説明にもあったとおり、帝国書院の方が大きいサイズであり、同じ縮尺、同じ図法のヨーロッパ主要部図を比較してみたところ、描かれる地域が広がっている。北アメリカ大陸の地図でも、アメリカとメキシコとカナダの主要部が見開きで収まっており、大きなメリットであると考えられる。また、都市や道路、記念物、鉱物などの情報量も非常に多い。他にも、同緯度、同縮尺の日本が薄く描いてあり、日本の位置や大きさについて、生徒に実感させるために有効であると考えられる。QRコードが随所に配置されていることも良い点で、関連する資料や動画を見ることが出来る。帝国書院の長年に渡る地図づくりのノウハウが詰まっており、優れていると感じた。

【数学】新興出版社啓林館

総括指導主事 練習問題の量が多く、基礎・基本の定着を図る練習問題のほか、巻末に補充問題等が多く掲載されており、教科書でしっかり力身を身につけることができる。また、教科書内にデジタルコンテンツが二次元コードで示されており、タブレット端末等を用いて、問題のシミュレーションを見て確認することができる。要所に「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」を設定し、学んだことを表現することで理解を深め、学びを広げる工夫がある。レポート等の書き方についても記載されており、考えをまとめて表現するための工夫がある。

松下委員 京都府教育委員会が示した採択基準と基本観点に沿って見せていただいた。また、教科書は生徒が使用するものであり、毎日持ち運ぶものであるため、大きさや重さについても考慮した。

まず、大きさ、サイズについては、啓林館は本当に適当な大きさを扱いやすく、字が他社に比べて見やすいと感じた。次に、内容について、啓林館では内容に入る前に、「ノートにくふうして、学習に役立てよう」というページが見開き2ページで記載されており、学習内容によってノートの取り方が違う。他社を比べてみると、東京書籍と大日本図書にノートの取り方の記載があったが、パターンは1つであった。啓林館は、単元の内容によりそこを変えている点が大きな特徴である。その中では、先生の説明や他の生徒の発言で気になったこと、なぜ自分が間違っただのかなどについて、ノートの右端にスペースを取って自分でメモするという方法、色の使い方、間違いやすいアルファベットと数字との違いなども書かれており、普段の授業にすぐに活用できるとともに、主体的・対話的で深い学びにも通じるものだと感じた。

次に、基礎・基本の問題と知識技能の習得について、啓林館では、章末の問題で2つに分けて掲載してあった。「学びを確かめよう」は基礎・基本の問題ばかりが掲載され、ページをめくると「学びを身につけよう」があり、発展問題が掲載されていて、これは非常に深い問題になっている。また、発展問題では、理科など他教科との関連についても書かれているほか、環境問題などと

の関連も掲載されており、生徒にとって学習しやすい、興味が湧く教科書であると思った。

次に、生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮については、授業で進めていく「みんなで学ぼう編」と、学んだ後に自分で進める「自分から学ぼう編」の2つに分かれており、後者が68ページもある教科書は他になかった。内容を見ると、基礎・基本から応用、さらには他教科と関連する内容もあり、自分で学習を進める生徒にとっては、非常に中身のある深い教科書であると感じた。表記・表現について、啓林館は適度な色彩を使っている点、ページの左端に黒字で何行目と記載のある点など、教師にとって指導しやすい教科書であると感じた。

【理科】新興出版社啓林館

総括指導主事 鮮明なカラーで大きめの図や写真と、本文の記述の割合が適切で読みやすい。また、各単元の最後に探求活動の説明があり、単元で学習した内容に関連した発展的な探求活動に導く構成となっている。学習内容に関連したデジタルコンテンツをQRコードで300か所以上掲載しており、内容も充実している。家庭学習も含めて理解が深められ、主体的な学習にも効果的に活用できる。

松下委員 若干、気になったのは、すべての教科書で、写真などが大き過ぎると感じた。近くで見ると何か分かりにくく、大ききの必要性を感じなかった。最近、ユニバーサルデザインの考え方が広がってきたが、写真などが大き過ぎたり、色が鮮明過ぎたりすると、苦しくなる子どもたちもいるので、配慮が必要であると思う。

最近では重たくなることを避けて、薄い紙を使ったり、茶色っぽい紙色であったりと、紙質が良くない教科書がある。しかし、啓林館については、ある程度の厚みで紙も白く、非常に見やすい紙質である。また、A4版ではあるが横幅が若干広く、書きやすい、見やすいという点が良い。東京書籍については、縦が長く横が短く、使いづらいのではないかと思う。内容に関しては、「科学コラム」が随所に掲載されており、部活動や家庭科との関連で料理のこと、キャリア教育で仕事の関係、防災などについての記

載があり、内容を深めるのに役立つ。また、高校で学習する内容についての記載もあり、生徒はそういうところに目がいきがちで、より高度なことに興味を持たせ、自ら学ぶ意欲を湧かせるという点で良いと思う。

基礎・基本と技能については、実験観察のスキルがしっかりと掲載されており、実験器具の使用方法が詳細に表記されていた。思考力・表現力・判断力については、随所に書き込み欄が設けてあり、自分の考えを記入することができる。ただし、ノートと教科書との関係については、指導の面できっちり仕分しておくことが必要で、教師側のスキルが必要になってくる。主体的・対話的で深い学びについては、他教科との関連が随所にあること、また、数学との関係について触れており、生徒がこれを基にフィードバックしたり、数学の教科書を見たりすることもあると思った。

【音楽 一般、器楽合奏】教育芸術社

総括指導主事 まず、一般について、発声の基礎内容が1年、2・3年の上下ともに記載されており、変声期についても丁寧に説明され、基礎・基本の定着が図れるように配慮されている。共通教材では、古語の説明や作詞・作曲の背景について、言葉だけでなく写真等で視覚的に説明する工夫がある。

次に、器楽では、奏法、名称等について丁寧かつ分かりやすく説明されており、より豊かな表現力を育成できるよう配慮されている。また、和楽器を活用した創作の導入により、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されている。

新 司 委 員 教育芸術社については、一般と器楽ともに、巻頭ページに各界のプロフェッショナルの方から中学生に向けて、音楽や芸術と自身の関わりなどを交えてメッセージが掲載されているほか、「音楽ってなんだろう？」というページがあり、音楽の本質について書かれていて、音楽を学ぶことで視野を広げ、幅広い価値観を持つことができるような工夫が見られる。目次とは別に、1年間の学習内容が示されており、表現と鑑賞領域の2つの領域において、どの教材で何を学ぶのかを理解し、見通しを持つことができ、学

習への意欲や主体的に学ぶことにつながると思う。ページの左端には、学習目標が、その下部には音色、リズム、旋律、強弱などの音楽を形成する要素が示されている。これによって目標を意識して主体的に学習を進めることができると感じた。巻末には、これらを基にした振り返りのページもあり、1年間の学習内容を振り返ることができる。

次に、一般の教科書では、学習が段階的に進められるような構成と、それぞれがつながりを持つよう配列が工夫されている。例えば、1段階目の「My Voice」では、発声や呼吸の仕方などが分かりやすく示され、変声期の発声についても説明がある。次の「My Melody」では、課題に沿って自分で旋律を創り出す内容となっており、個人で、またグループで創意工夫をしながら創作を進めていく。これらは、主体的・対話的で深い学びが実現できるように学びの手順が具体的に示されており、非常に分かりやすいと感じた。また、全学年に曲の良さをプレゼンしようというページが設けられており、仲間と協働して創作する喜びを体験できる内容となっている。写真やイラストが多く掲載され、伝統的な音楽や芸能、楽器に関する解説についても歴史的な背景なども併せて詳細に記載されており、生徒の興味が広がっていくように思う。

次に器楽について、Q & Aのコーナーでは、演奏の仕方が丁寧に示されており、生徒が楽器を演奏する際に役立つものと思われる。演奏のための技術を習得できるよう、写真やイラスト、楽譜などで指の動かし方、演奏する際のポイントなどが理解しやすく説明されている。基礎的な内容から仲間との合奏など、段階を踏んで学習に取り組めるような配慮がある。また、和楽器についても、幅広い内容で中学生の興味の広がりや伝統的な音楽への愛着を育む内容になっている。音楽が自分たちの生活や社会の中でのように入り入れられているのか、また、音楽が社会において果たす役割についても示され、幅広い視野で音楽を学ぶことにつながっていく。以上の点において、教育芸術社の教科書が優れていると感じた。

【美術】光村図書

総括指導主事 各題材をそれぞれの視点で分類し、その中で表現中心の題材と鑑賞中心の題材が分かるようにマークを変えている。また、資料、制作工程が豊富であり、充実している。作品の説明が丁寧であり、音声ガイドや原寸大表示など、鑑賞への意欲が高まる工夫がある。各單元にはQRコードがあり、多くの作品が鑑賞できるようになっている。

新 司 委 員 美術については、どの教科書も写真が美しく、本物により近い雰囲気味わえ、心が豊かになるような工夫が見られた。その中でも光村図書の内容が素晴らしいと感じた。

1年生の導入部分では、「美術って何だろう」というページがあり、小学校の図画工作科とのつながりや、美術科で何をどのように学ぶかということが分かりやすく書かれている。また、保護者に対しても、裏表紙に美術科を学ぶ意義を伝える記述がある。

美術を構成する要素である表現と鑑賞を一つの題材の中で一体的に学ぶことができる構成になっている。表現中心の題材では、最初に表現につながる鑑賞の図版があり、身につける力は何か、発想や構想を広げる工夫、作品を作る、また、作品を鑑賞するという学びの手順が示されて、表現が苦手な生徒に対しても配慮されている。制作の分野では、完成作品とともに制作のプロセスが写真で分かりやすく例示されており、手順、材料、用具の使い方など、流れが分かるようになっている。これにより思考力・判断力・表現力の育成を図ることができると考えられる。また、教科書全体を通して、生徒の作品がとても多く掲載されており、作品の完成に至るまでの制作過程が紹介されていて、これを参考として、意欲的に取り組むことができるのではないかと考えられる。

他の教科とのつながり、特に道徳科とのつながりのページが多く見られる。相互理解の項目、寛容の気持ち、伝統文化の尊重、国際理解など表記があり、道徳の関連を意識して学ぶことができるよう工夫されている。他にも、東日本大震災後に作られた作品が随所に見られたり、絵や彫刻などの写真が大きく掲載されていて迫力が感じられたり、作品集、資料集としても価値のある内容

が多く、鑑賞する力もが身につくものと考えられる。特に、鑑賞の分野では「特別展示室」のページで、国宝の風神・雷神の彫刻と屏風が掲載されていて、作品の良さや違いについて生徒たちが話し合い、鑑賞の仕方を深めていける題材が掲載されており、素晴らしい教科書であると思う。

【保健体育】東京書籍

総括指導主事 学習の流れが分かりやすく構成されている。また、動画で技能を確認できるデジタルコンテンツが用意されており、インターネットを活用した学習が進められるよう工夫されている。章末の学習のまとめでは、確認問題、活用問題が設定されており、知識の習得や生徒の思考力、判断力を引き出せるよう工夫されているとともに、「日常生活に生かそう」では、生徒の主体性を引き出せるように課題設定が工夫されている。

松本委員 4つの観点から教科書を見させていただいた。まず、1つ目は、全体的な特徴や創意工夫という観点。例えば、自分の言葉で書く「振り返り」を設定したり、章末に確認の問題を設定したりするなど、各社それぞれに特徴があり、工夫もされていた。東京書籍については、学習内容を4つの項目、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」という流れで学習し、知識及び技能が習得しやすいように配慮をしている。

2つ目に、生徒が主体的・対話的に学習に取り組む配慮である。東京書籍は、単元の最初に「見つける」という項目で、身近な生活に基づいた発問があり、授業の導入時に生徒が主体的に学習できるよう配慮している。また、「活用する」という項目では、他の生徒と対話することで学習を深められるような多くの発問が記載されており、主体的かつ対話的な学習が展開しやすい。

3つ目は、思考力・判断力・表現力の育成を図るための配慮である。例えば、「感染症とその予防について」という学習内容について、東京書籍では、3年生の保健編に、「様々な感染症の、病原体の種類と感染する経路を調べ、比較しましょう。」という発問がある。このような発問により、自分たちの問題として考え、

意見が述べやすくなると思う。このように、思考力・判断力・表現力の育成につながる発問が多く掲載されている。4つ目に、デジタルコンテンツについて。東京書籍では、50ものデジタルコンテンツが用意されており、動画や資料等を数多く見たり読んだりすることで、興味・関心が高まり、学習が深まると考えられる。

【技術・家庭 技術分野】東京書籍

総括指導主事 文章と写真やイラストなどとのバランスが取れており、統一感のある色使いで、見やすさを意識したレイアウトやフォントなども工夫されている。また、以前の教科書から大幅に軽量化されている。技術の工夫という内容が多くページに記載されており、専門的な内容が丁寧に説明されている。QRコードの配置など、インターネットを活用した学習についての配慮もされている。

岡島委員 技術は3社あり、東京書籍が一番良いと感じた。専門的な内容が平易に書かれており、写真やイラストを用いて分かりやすく解説されている。また、DマークやQRコードを読み取ることで、インターネットを活用した学習ができ、作業を動画で確認したり、他の教科との関連を調べたりすることができる。

安全に関する内容について、3社とも2、3ページ使ってイラストで丁寧に説明している。また、作業のページでは、安全マークを使用して注意喚起している。その中で、東京書籍については、各編が「1原理・法則と仕組み」、「2問題解決」、「3発展と技術」という構成になっており、分かりやすく使いやすと感じた。一つ一つの内容が丁寧に書かれていて知識の定着が図りやすく、また、「まとめよう」、「生活に生かそう」の項目では、考える機会が設けられており、知識の定着の確認ができるよう工夫されている。

また、「TECH Lab」のページでは、問題解決のための技術が写真やイラストを使って分かりやすく書かれており、問題解決のために必要な技術を選択して取り組むことができる工夫がある。3社とも、章の最後に、学習のまとめのページがあるが、東京書籍では、併せて大切な用語が掲載されているページ数とともにまと

められていた。

【技術・家庭 家庭分野】東京書籍

総括指導主事 1冊の教科書を3年間教えるに当たり、東京書籍は内容の配列が他社と比べ工夫されていた。「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」の項目があり、他社についてはA、B、Cの順番であるが、東京書籍については、B、C、Aの順番で、最後に生活の実践と課題という構成になっており、自立から共生のストーリーになるように工夫されている。また、最初に目標を示し、最後にまとめようで知識の定着を確認できるようになっている。

岡島委員 家庭科では、3年間で学ぶ内容が「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」、そして選択「生活の課題と実践」で構成されている。総括の説明と重複するが、東京書籍については、この順番ではなく、Bを3編に細分化した上で、B、C、A、生活の課題と実践の順になっており、自立に必要なことから学び、そこから共生につながるよう工夫されている。3社とも和食、地域社会、呉服、住まいで、日本の伝統文化を扱っているが、東京書籍は章末や巻末ではなく、各ページで他国の内容も紹介しており、異文化への理解につながる工夫がある。イラストや写真を使い、見やすく工夫されているほか、DマークやQRコードにより、動画で作業を確認したり、他教科との関連を調べたりできるようになっている。

「いつも確かめよう」や「学習のまとめ」のページでは関連する内容や用語が掲載されているページ数とともに示されており、確認しやすい工夫がある。また、登場キャラクターのせりふにより、深い学びにつなげていくよう工夫されている。東京書籍には、防災手帳と子どもの視界体験眼鏡の付録が付いていた。子どもの視界体験眼鏡は、いかに幼児の視界が狭いかということが体験でき、幼児と触れ合うときに生かされるのではないかと感じた。

【英語】光村図書

総括指導主事 ストーリー性を重視した内容で、3年間の出会いから学校生活、別れまでの物語になっており、身近な話題を基に本文が作られている。また、自然で日常生活で使える表現が豊富に使われており、英語を使う意欲を高める工夫がある。次に、各単元の構成がほぼ一定であり、各ページに基本文として文法事項が明記されていて何を学ぶのか分かりやすいこと、話すことや発表を意識したページがあることなど、工夫がされている。また、QRコードを使って自学自習ができること、音読回数を記録する欄が設けられていることなどの特徴がある。

川村教育長 英語については、山城地域では、東京書籍の「New Horizon」を28年間に渡り使ってきた経過がある。採択地区協議会の代表調査員の説明では、「New Horizon」をどう評価するか、調査員による活発な議論があったことが報告された。評価できる点は、使い慣れていて使いやすい、それは非常に良くつくり込まれているからであるとのことであった。一方で、サイズが大判で最も大きく、内容が盛りだくさんで消化し切れるかどうかという課題もあり、限られた授業時間の中で制作者が大切にしている内容を省くような授業にならないかという懸念も報告された。

採択地区協議会の委員からは、昨年の小学校の教科書採択で「New Horizon」の小学校版を採択しており、違う教科書の採択に当たっては、小中の接続を心配する声もあった。しかし、代表調査員の報告では、学習指導要領が来年度から変わることに合わせて、教科書を新たに換えることで、現場の先生へのメッセージになるという意見があり、この点について、大変意欲的な考え方であり、私も同意したところである。今、英語教育が変革を迎えており、教科書を変更し、一から研究し直すことは大変ではあるが、この変革に対するインパクトになるものと思う。光村図書の「Here We Go」については、ストーリー性があり、身近な話題が中心であって、単元の展開が使いやすく、基本文や文法事項もしっかりまとめられていて見やすいという点で優れている。

また、新学習指導要領の新たな領域として「発表」がある。「読む、聞く、書く、話す」の4技能のうち、「話す」を発展させて

「発表」を加えたわけであるが、これを意識した展開が色濃く出ている。発表につながるように、数ユニットごとに「You Can Do It」というページが設定されており、定型的なフレーズに単語を当てはめるだけのものではなく、思考力・判断力・表現力を統合的に高めるものであると思う。例えば、ある意見が書いてあり、それに対して「agree」「disagree」を選択し、その理由を述べて討論するものがある。会話だけではなく討論にまで進めていくことは、英語だけでなく、新指導要領の実践として、これからの日本の教育・学習方法として望ましいと考えられる。以上から、光村図書が良いと思う。

【道徳】 廣濟堂あかつき

総括指導主事 あかつきの教科書は、本編と別冊「中学生の道徳ノート」により構成されている。別冊は内容項目の説明資料や補助資料になっており、自分の考えを書き込みながら考えることができる。これを本編と併用することで内容を深めることができる。また、著名なスポーツ選手や学者、偉人等の多彩な人物教材があり、読み物資料や感動的な資料が多く、親しみやすい教材となっている。一つの教材に対して複数の内容項目についての指導が考えられており、学校の実態に応じて指導できるよう工夫されている。

松下委員 道徳については、他の9教科の採択基準の基本観点とは別に、道徳だけの別の基本観点がある。その中でも、深い学びの一つである情報モラルと現代的な課題などの題材の取扱いについて注目して見させていただいた。

道徳は小・中学生の哲学であると思っており、人としてどう生きるかについて、道徳という教科から学んでいくものと思う。あかつきは、「自分を見つめよう」というプロローグがあり、少し感動的な内容が最初に記載されている。他社でも、道徳の時間はどのような学習をする時間であるかということが、項目分けをして箇条書きなどで書かれているが、あかつきは文章化しており、中学生という発達の段階の生徒がこれを読んでどのように捉えるかという点で良いと感じた。

道徳には、主要項目が4つある。「自分自身に関すること」、「人との関わり」、「集団社会との関わり」、最後は「生命や自然、崇高なものとの関わり」というもので、その中でもさらに細かく22に分かれている。道徳は小学校からの継続があり、中学校に進学して何を学ぶのか、中学校でどのような生き方をするのか、今後、高校生や大人になってどのような生き方をしていくのか、このつながりのなかの大きな一つの発達の段階である。この点において、各学年で何を学ぶかということについて、あかつきの教科書は明確であり、1年生では副題に「自分を見つめる」とあり、2年生は「自分を考える」、3年生は「自分をのぼす」で、この文章を見れば、この1年間は自分を見つめていくのだということが理解でき、ここは大きなポイントであると感じた。他社では、3年間とも同じ副題が多く、その点でも違いを感じた。

また、あかつきには、スポーツ選手や芸能人、哲学者等の書いたものが掲載されており、これだけでも非常に面白いが、目次に著者名が記載されておらず、読むときに初めて、これはこの人が書いたものだということが分かるようになっており、その辺りにも工夫があると感じた。

あかつきの教科書の特徴として、別冊で「中学生の道徳ノート」があり、7社のうち2社が道徳ノートを作っていた。他の1社については、ノートを見れば1時間で学ぶ中身や授業の流れが分かるようなものになっている。あかつきについては、教材名を書く欄があるだけで他には何も書かれておらず、工夫次第で色々なノートを作ることができると感じた。

文字のサイズについて、1年生、2年生と読んでいて気がついたが、学年によって文字サイズを変えており、学年が上がるごとに少しずつ小さくなっている。ここでも発達の段階を考えて、徐々に文字を小さくするというUD化を取り入れていることを感じた。

教材の内容については、どの教科書も感動的な資料が多く掲載されており、昔から使っていた資料も掲載されていて、どの教科書も良い内容であると感じた。あかつきでは、「thinking」とい

うコーナーが各学年3つあり、どれも感動的な内容であったが、1年生の内容で「おにぎり」というものがある。冬の豪雪のときに車が渋滞していて、おなかが減ってくる、トイレも行けない、そのような状態の方に対して、近くの住人がおにぎりを配ったり、家のトイレ使ってくださいと言ったりするという内容である。最初は1人から始まったことが、どんどん輪が広がっていくというもので、日本で災害などが起こったときの助け合いに関する典型的な例として良いと思った。また、「母に会いたい」や「あなたに逢えてよかった」では、母親という近しい人の死に触れる内容もあった。中学生だけではなく、大人でもこれを読み物にできるような教科書で、子どもたちがこの3学年で学習して、それを残しておいて時々見返して読めるような教科書であると感じた。本当に素晴らしい教科書を作っていただいたと感じたので、あかつきの教科書を推薦したいと思う。

川村教育長 これで全ての教科が終了した。各委員の発言については、地区協議会が選定した教科書を支持する内容であり、異なるものを推す意見はなかったものと思う。特に追加での意見や異論がなければ、採決に進みたいと思う。

(採決 - 全員挙手により原案どおり決定)

(5) 事務局からの諸報告

総括指導主事 1 生徒指導報告について

(1) 小学校

7月の問題事象は1件。不登校は6名となっている。

(2) 中学校

7月の問題事象は4件。不登校は27名となっている。

問題事象については、小中学校とも指導を終えている。

不登校については、各学校において、本人、保護者との連絡を取り、状況を把握している。家庭訪問を中心に状況把握を努め、また、スクールカウンセラーの活用等を進めている。

総括指導主事 2 重災害事故報告について
7月の重災害についてはなし。

総括指導主事 3 問題事象の月別発生件数について

問題事象については、4、5月と学校が休業期間であったため0件であったが、6月から再開となり少し出てきている。休業があったこともあり、前年度と比べると少ない状況である。

長期欠席については、小学校、中学校ともに前年度よりも若干増えている。7月については、登校日が31日までと例年よりも長かったこともあり、増加していると思われる。

総括指導主事 4 いじめ調査集計について

(1) 小学校

7月調査での認知件数は295件。要指導、要支援、見守り、解消の件数の内訳については、4、5月の学校の休業により、調査から相当期間の経過、これは3か月以上になるが、この期間の経過によるいじめ解消及び未解消について判断ができないことから、今回、1回目の調査においては報告を求められていないため、未掲載となっている。なお、重大事態に至る案件はない。

(2) 中学校

7月調査の認知件数は16件。要指導等の内訳については、小学校と同様の理由により未掲載となっている。なお、重大事態に至る案件はない。

学校教育課長 1 大型提示装置の財産取得に係る議案の提案について

精華町議会定例会9月会議において、大型提示装置の購入に伴う財産取得の議案を提案する予定である。大型提示装置の内容としては、65インチのテレビモニターと移動式スタンド、そしてタブレット端末からモニターに画像等を無線により転送して表示させることができる画像転送装置、この3点のセットとなっている。また、テレビモニターについては、学校に既存

で47台整備したものがああるため、その既存分に取り付ける画像転送装置47台分を別途購入するというものである。

生涯学習課長 1 9月以降の行事等の開催状況について

生涯学習課に関連する毎年開催している大規模な行事等について、9月以降の開催状況を報告させていただく。例年9月開催のけいはんなサイクルレース、10月開催のせいか健康・スポーツ交流フェスティバル、せいか文化フェスティバル、11月開催のせいかマラソン、せいか祭りと同日開催で実施している子ども祭り、これら5つの事業については以前にも報告の通りコロナ禍の影響により中止としている。年明け1月11日にけいはんなホールで開催予定の令和2年度成人式については、保護者の入場規制、観客席の間引きなどの対策を実施した上で、現時点では何とか実施の方向で進めているところである。最終的には10月末を目途に判断したいと考えている。もう1つ、第14回定期演奏会について、これは毎年3月末に、かしのき苑で開催している少年少女合唱団の定期演奏会である。具体的な対策等についてはまだ決定していないが、現在、練習を再開しており、実施可能な対策を検討した上で開催したいと考えている。

【委員からの意見】

松下委員 先日の新聞に山田荘小学校の校区に青パトが導入されたという記事が載っていた。桜が丘の見守り隊が導入されたとのことで、この団体は以前から見守り活動を一生懸命していただいている。特に、桜が丘や兜台、南陽高校の周辺では不審者の出現情報が多い。精華町では、この見守りのための青パト導入は初めてということで、3台の青パトを導入したということであるが、他の地域での導入予定等はあるのか。

教育部長 今回、桜が丘一丁目の方々を中心に、警察に対して青パトの活動を申請された。青パトについては、基本的に講習を受けて許可証をもらわないとパトロール業務が実施できず、また、法令上の

規制があり、限定された地域しかパトロールが許可されないことになっている。今回については、桜が丘地域在住の方であることから、桜が丘地域に限定してパトロールが許可されている。町の職員でも青パトの許可証を持っている者がおり、2か月に1回、1日に青色パトロールを実施している。しかし、今回のような青パトによる見守り活動を各地域でやっていただくところまで、町として啓発はできていないのが現状である。今回の活動は、防犯推進委員の方を中心に取り組んでいただいております、防犯推進委員会の各支部は町内にもある。出陣式には、教育長と私も出席させていただいて、現場の様子なども見せていただいたが、教育委員会としても、防犯の内容も含めた子どもの通学路の安全に関する活動に取り組んでいただけることは非常にありがたいことであると考えている。是非ともこのような活動が各校区に広がっていけばと考えており、防犯の所管である危機管理室とも連携して進めていくことができればと思う。

松 下 委 員 学校によっては、教頭や教務主任が毎朝、校区を回って子どもの状況を見たり、安全確認したりしている。今回のように地域の方が見守りに動いていただけることは、学校にとってありがたいことである。また、普通に見回っているだけでは見守り活動とは分からないが、青パトであれば見守りで回っていることが確実に分かるし、不審者に対して抑止する効果もあると思う。このような活動が少しずつでも各地域に広がっていけば良いと思った。

(6) 後援関係

7月から8月に受け付けた教育委員会後援事業の報告は、総数3件、学校教育課関係が0件、生涯学習課関係が3件である。内訳は、社会教育係が3件、社会体育係が0件、図書係が0件である。

(7) 9月の行事予定

(8) 閉会

教育長が第8回教育委員会の閉会を宣言。